

第39回

うつのみやこども賞だより

令和4年度 5回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『かがやき子ども病院トレジャーハンター』

まはら 三桃／著（講談社）



～読んだ本の感想より～

- 病気を持つ人のつらさがわかった気がしました。
- いろいろな病気の子たちがどんどん仲よくなったり、協力したりするところがいいなと思った。
- 病院にも学校みたいなものがあるんだなと思いました。
- 「へえ、こんな病気があるんだ!」と思ったり、心の病気についてあらためて深く考えられた。良志の作った氷の女王の二つの物語はとてもおもしろかったです。
- ひみつで屋上に行くのが楽しそうだった。病院の先生たちも、気付いていたのに止めずに実行させてくれるのがやさしかった。
- 「病気」とひとくくりにしても、それぞれ違うし、大変さも違うけど、その中で大きな絆が作られていくのがすごいと思った。

令和4年10月2日

『博物館の少女』 富安 陽子／著（偕成社）

- 不老不死がうらやましいと最初は思ったけどやはりこわいと思った。
- 途中、アキラとイカルが忍び込んで調査をする場面はドキドキした。
- 黒手ばこは、不老不死などのひみつがあったからぬすまれたのもなつとくでき、ミステリーみたいでおもしろかった。
- 明治時代の話でお金の価値の違いや、イカルがキリンのことを「ゲンゴロウ鼠」と言ったりしているのがおもしろかったです。
- 最後の、おみつの正体が明かされる時などは、ドキドキしました。

『馬と明日へ』 杉本 りえ／作（ポプラ社）

- はる斗の気持ちがよく伝わってきて、とても読みやすい本でした。
- 乗馬は馬と人間のしんらいが大切なんだなと思った。
- マリモが天国へいってしまったときは悲しかったけれど、悠斗とジェニーの関係はすてきだった。
- 悠斗はマリモがいなくなってしまうとしばらく「しいの木ファーム」にいかなかったけれど陽向のおかげでまた馬に乗ることができてとてもいいコンビだと思った。

『屋根に上る』 かみや としこ／作（学研プラス）

- 最初はあまり仲が良くなかった同年代のこども同士が大工仕事を一緒に教えてもらうことで少しずつ仲良くなっていく様子がとてもほえましかったです。
- 木組っていつなぎかたをして、どうしてこうなるんだろうとふしぎにおもった。
- 大工の楽しさをしったきがした。
- 最初は複雑だった主人公たちの関係が、どんどんちぢまっていくのがおもしろかったです。